



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
4/3 (月)	+ 600	▲ 33,400	▲ 32,800	国債発行・償還 (2年)	補充供給 + 53,700 CP等買入 ▲ 100		日：短観 (1Q) 米：ISM製造業景況指数 (3月)
4/4 (火)	▲ 1,000	▲ 9,000	▲ 10,000	法人税、消費税、保険揚げ 普通交付税			日：マネタリーベース (3月) 米：製造業受注 (2月) 欧：ユーロ圏PPI (2月)
4/5 (水)	トン	▲ 27,000	▲ 27,000	国債発行 (10年)			米：貿易収支 (2月) 米：ISM非製造業総合景況指数 (3月)
4/6 (木)	+ 1,000	トン	+ 1,000				米：新規失業保険申請件数 (4月1日終了週)
4/7 (金)	▲ 1,000	▲ 10,000	▲ 11,000	国債発行 (30年)			日：景気先行CI指数 (2月) 米：雇用統計 (3月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初543兆9,700億円から始まった。その後、主に年度末特有の財政資金の支払により同残高は増加基調を辿り増加し、週末となる31日には549兆800億円 (速報) となった。

無担保コールON物加重平均金利は週初、▲0.014%から始まり、その後30日まで取り手の調達意欲は底堅く、同金利は▲0.015%~▲0.014%で推移した。年度末となる31日には一部金融機関が調達を見送ったことから同金利 (速報) は▲0.030%まで低下し越週した。

ターム物は1~2W物を中心に▲0.010%~▲0.005%程度の水準で出が見られた。

来週の予定は、国内では、4月3日に短観 (1Q)、4月4日にマネタリーベース (3月) の公表があり、海外では4月3日に米ISM製造業景況指数 (3月)、4月4日になどがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.020 ~ 0.020
2M	0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レボ>

足許GCは週初▲0.20%近辺まで低下、週央まで▲0.40%~▲0.20%のレンジで推移した。四半期末跨ぎとなる30日の取引では▲1.00%近辺の出合いが見られ、大幅に低下した。週末は期末要因が剥落したこともあり、一時▲0.11%近辺まで上昇した。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.01

<CP>

今週の入札発行総額は約2兆2,300億円で、週間償還額 (約6兆円) を大きく下回った。発行市場は、決算期末の有利子負債圧縮を進めたこと等から大幅な償還超となった。発行残高は先週末の26兆9,222億円から30日時点で25兆2,235億円と減少した。発行レートはゼロ%から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。28日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート+0.002% (前回0.003%)、平均落札レート+0.018% (前回+0.013%) と按分レートが前回比で低下した。

来週の週間償還額は、約2,600億円となっている。発行市場は、期明けの発行再開が本格化することから、発行超を予想する。発行レートは、発行期間や発行残高等によりやや幅の広いレンジ圏での出合いを予想する。

<TDB>

今週のTDB入札は実施されなかった。

来週は4月3日 (第1148回) と4月7日 (第1150回) に3Mの入札、4月6日 (第1149回) 6Mの入札が予定されている。